

国語 第2学年 夏がいっぱい

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。夏の事物を表す言葉と、観察した様子を結び付ける。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「夏がいっぱい」 教材名「夏がいっぱい」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。〔知識及び技能〕(1)ア) 経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

夏の事物を表す言葉と、観察した様子を結び付ける学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア) 〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 〔主体的に学習に取り組む態度〕①夏の事物を表す言葉と、観察した様子を結び付ける学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

夏の事物を表す言葉と、観察した様子を結び付ける。この教材では、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞きした自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。想定する難しさは、季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確かめない。評価では、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。夏の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○夏の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「夏に確かめた音や色を、どんな言葉にしますか」

【めあて】夏の事物を表す言葉と、観察した様子を結び付ける。

予想される児童の反応：・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「夏に確かめた音や色を、どんな言葉にしますか」

夏の自然や暮らしの言葉を教科書で確かめ、見聞きした様子と対応させる。意味の近い語を比べ、伝えたい様子に合う語で短い文章を書く。友達が思い浮かべた様子を聞き、表す語を選び直す。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・同じ季節でも言葉によって思い浮かぶ様子が違う。

・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。

指導上の留意点：教科書で扱う季節の語の意味を実物・写真・辞書で確認する。行事の経験がない児童も、学校で見聞きした自然や暮らしから表す対象を選べるようにする。

想定する難しさ：季節の語を集めるだけで、語の意味や自分が表したい様子を確かめない。

評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・見た場所や感じたことに合う言葉を選びたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「夏に確かめた音や色を、どんな言葉にしますか」。中央は、夏の語と意味、伝えたい様子を表す自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

